

2024年3月期 決算短信補足資料 (2023年4月－2024年3月)

2024年5月7日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



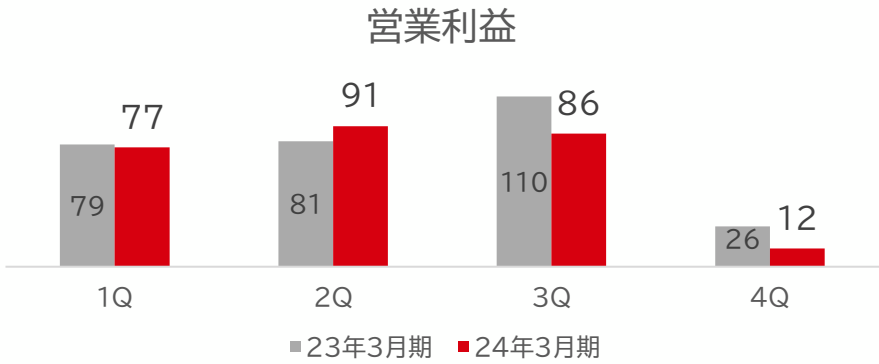
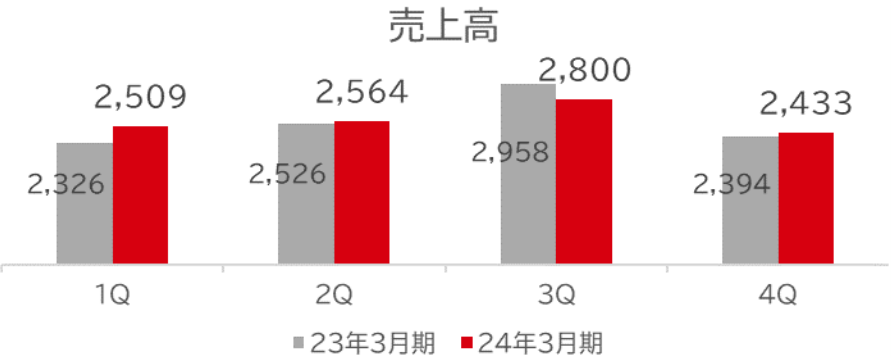
- 2024年3月期概況 P.3～12
- 2025年3月期計画と今後の施策 P.13～23
- Appendix P.24～29

2024年3月期概況

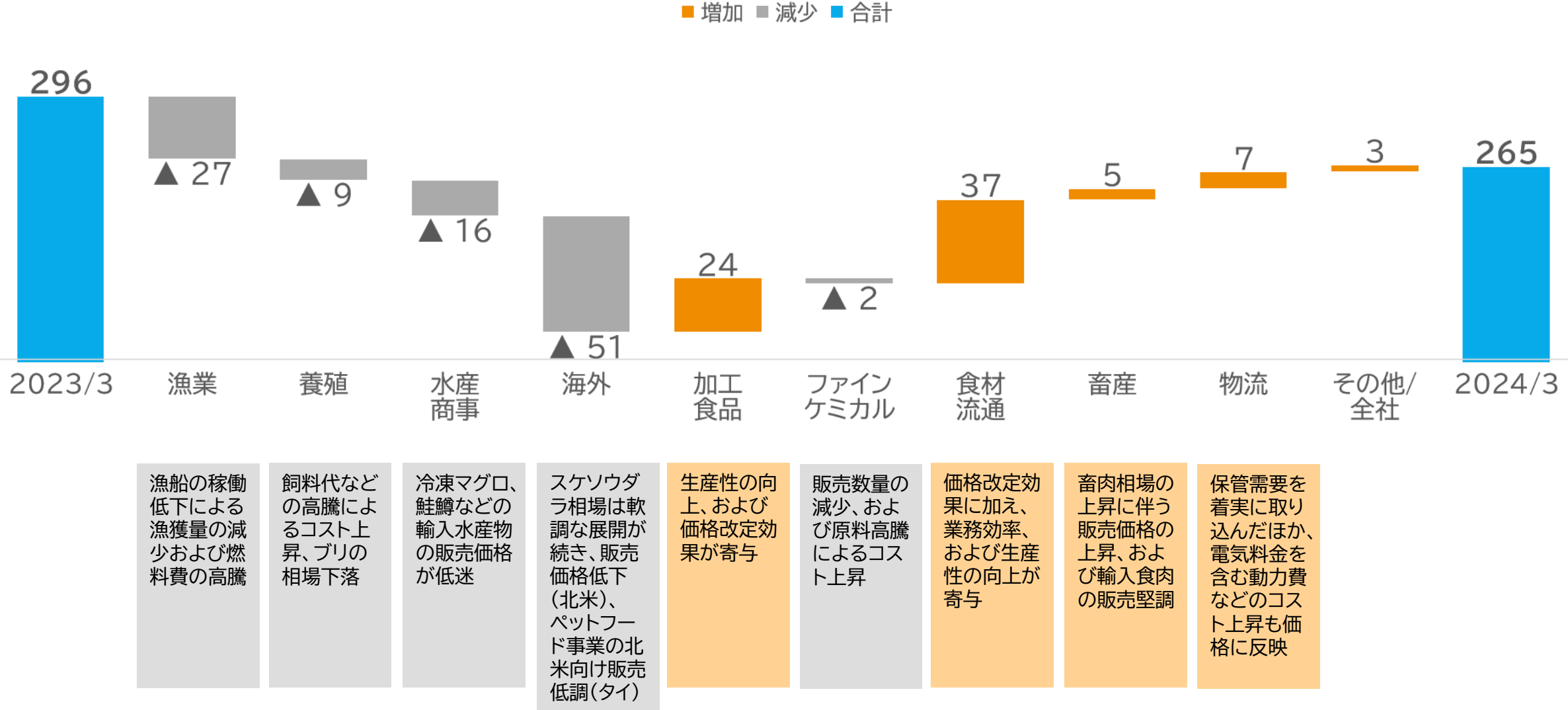
売上高は、食材流通セグメントにおける好調な販売と価格改定効果により増収。一方で、営業利益は、加工食品セグメント・食材流通セグメントが好調に推移するも、水産資源セグメントにおける減益分をカバーできず、減益

(単位: 億円)

	24年3月期	23年3月期	前年対比		年間計画(修正後)	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	10,307	10,205	102	+1.0%	10,200	101.0%
営業利益 (営業利益率)	265 (2.6%)	296 (2.9%)	△ 30	△10.3%	270	98.3%
経常利益	311	335	△ 24	△7.1%	310	100.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	209	186	23	+12.1%	220	94.8%
EBITDA	460	474	△ 15	△3.1%	—	—



営業利益の増減要因(前年対比)



水産資源セグメントは、前年対比で減益。

- 漁業ユニットは、漁船の稼働低下による漁獲量減少および燃料費の高騰により減益
(漁業ユニット営業利益 △10億円、前年対比 △27億円)
- 海外ユニットのスケソウダラ事業(北米)は、相場が軟調に推移しており、販売価格が低下
ペットフード事業(タイ)は、販売は回復傾向にあるものの、上期の数量減が響き、減益
(海外ユニット営業利益 83億円、前年対比 △51億円)

加工食品セグメント・食材流通セグメントは、大幅な増益。

- 価格改定効果、商品の規格変更・商品数削減などによる業務効率化、生産性の向上が奏功
(2セグメント合計の営業利益 125億円、前年対比 +62億円)

2024年3月期 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	24年3月末	23年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,050	3,926	123	現預金(+43)、売上債権(+66)、棚卸資産(△14)
固定資産	2,668	2,446	222	有形固定資産(+32)、無形固定資産(+3)、投資有価証券(+137)
資産合計	6,718	6,372	346	
流動負債	2,730	2,654	75	仕入債務(+20)、短期借入金(△67)
固定負債	1,534	1,593	△ 59	社債(+130)、長期借入金(△231)
負債合計	4,263	4,247	16	
株主資本	1,789	1,636	152	利益剰余金(+158)
その他包括累計	283	147	136	
非支配株主持分	384	342	41	
純資産合計	2,455	2,125	330	
負債純資産合計	6,718	6,372	346	
有利子負債	2,844	3,011	△ 168	(社債+130を含む)
自己資本比率	30.8%	28.0%	2.8	

【資産の増減+346億円】

- ・株高による投資有価証券の評価差額の増加
- ・販売増に伴う売上債権の増加
- ※在外子会社資産の為替換算影響+171億円含む(円安)

【負債の増減+16億円】

- ・有利子負債の減少(△168億円)
- ・営業未払費用や仕入債務などの増加

<ご参考:24年3月末/23年3月末>

ROIC: 4.2% / 4.8%

ROE : 10.8% / 11.0%

2024年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

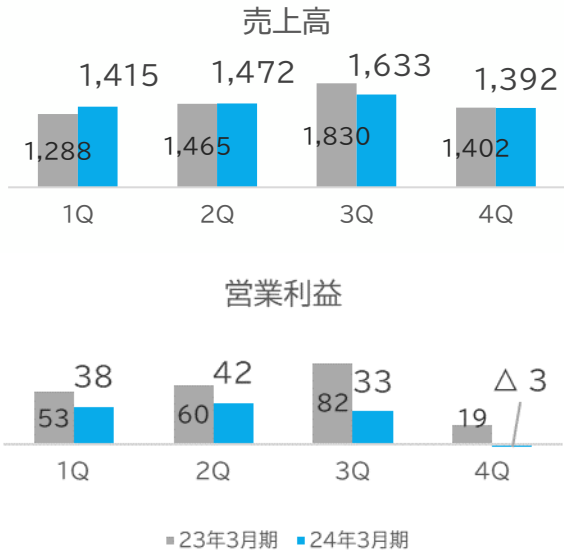
(単位: 億円)

	24年3月期	23年3月期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	536	△ 0	536	・税金等調整前当期純利益 (+359) ・減価償却費(のれん含む) (+179) ・売上債権の増減額(増加: △) (△40) ・棚卸資産の増減額(増加: △) (+65) ・その他流動資産の増減額(増加: △) (△17) ・その他流動負債の増減額(減少: △) (+48) ・法人税等の支払額 (△75) ・保険金の受取額 (+85) ・損害賠償金の支払額 (△13)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 189	△ 239	49	・有形固定資産の取得による支出 (△167) ・投資有価証券の取得による支出 (△31) ・利息及び配当金の受取額 (+19)
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 329	303	△ 632	・短期借入金の増減額(減少: △) (△139) ・長期借入金の増減額(減少: △) (△196) ・社債の発行による収入 (+129) ・配当金の支払額 (△50) ・非支配株主への配当金の支払額 (△21) ・利息の支払額 (△35)
現金・現金同等物の 期末残高	369	334	35	—

漁業での漁獲量減少と燃料費の高騰、スケソウダラ相場の軟調な展開が続いたことにより、全体で49%減益

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	24年3月期 (A)	23年3月期 (B)	前年対比(A-B)		24年3月期 (C)	営業利益率	23年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
漁業	385	422	△ 37	△8.8%	△ 10	—	18	4.2%	△ 27	—
養殖	160	159	1	+0.8%	7	4.4%	16	10.3%	△ 9	△57.0%
水産商事	2,981	3,099	△ 118	△3.8%	29	1.0%	45	1.5%	△ 16	△34.9%
海外	2,385	2,305	80	+3.5%	83	3.5%	134	5.8%	△ 51	△38.1%
セグメント計	5,911	5,985	△ 74	△1.2%	110	1.9%	214	3.6%	△ 104	△48.6%

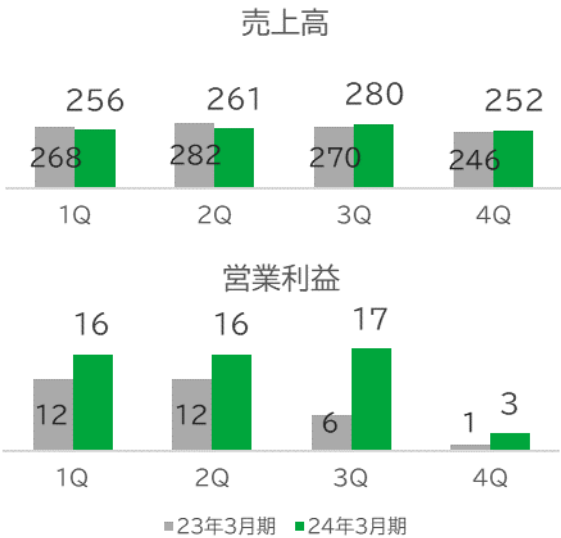


- 漁業 漁船の稼働低下による漁獲量の減少および燃料費の高騰により減収減益。
- 養殖 マグロ・カンパチの販売価格が堅調に推移し売上高は前年並みも、飼料代などの高騰によるコスト上昇、およびブリの相場下落の影響もあり減益。
- 水産商事 主に冷凍マグロや鮭鱒など輸入水産物の販売価格が引き続き低迷した結果、減収減益。
- 海外 <北米> スケソウダラの供給増があった一方、すりみ・フィレの相場の軟調な展開が続き、販売価格が低下し、増収減益。<欧州> 前期に子会社化したイギリス水産加工販売会社およびオランダの食品卸会社が堅調で、増収増益。<アジア> ペットフード事業が、主要販売先である北米での在庫調整を受けて販売が低調に推移し、減収減益。

加工食品での生産性向上および価格改定効果により、全体で69%増益

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	24年3月期 (A)	23年3月期 (B)	前年対比(A-B)		24年3月期 (C)	営業利益率	23年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
加工食品	971	989	△ 18	△1.8%	41	4.2%	17	1.8%	24	+136.6%
ファインケミカル	79	78	1	+1.3%	11	14.6%	14	17.8%	△ 2	△17.0%
セグメント計	1,050	1,066	△ 17	△1.6%	52	5.0%	31	2.9%	21	+68.5%

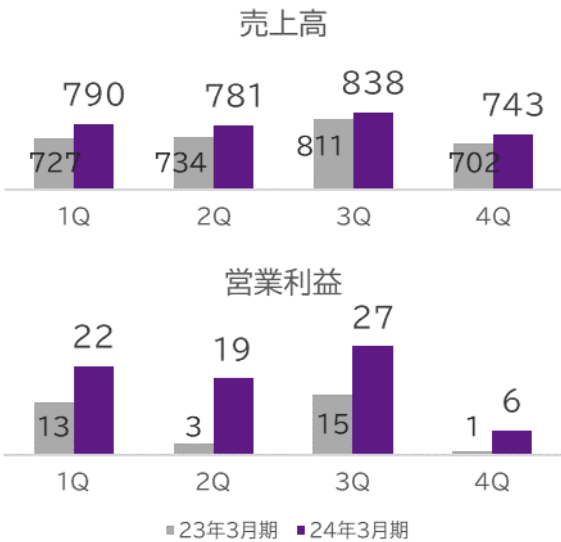


- 加工食品 価格改定が浸透し、主力製品の販売価格アップや数量伸長の好影響があったものの、前期に発生した広島工場の火災による逸失をカバーしきれず減収。一方、生産性の向上、および価格改定効果が寄与し、増益。
- ファインケミカル 医薬用コンドロイチンやヘパリンの販売が好調に推移して増収した一方、機能性表示食品制度の運用変更による販売数量減、およびペルーのアンチョビー禁漁による原料高騰などの影響により、減益。

増収効果に加え、業務効率および生産性の向上により、全体で136%増益

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	24年3月期 (A)	23年3月期 (B)	前年対比(A-B)		24年3月期 (C)	営業利益率	23年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
食材流通	2,228	2,113	115	+5.5%	59	2.7%	23	1.1%	37	+163.8%
畜産	924	860	64	+7.5%	13	1.4%	8	1.0%	5	+59.5%
セグメント計	3,153	2,973	179	+6.0%	73	2.3%	31	1.0%	42	+135.7%

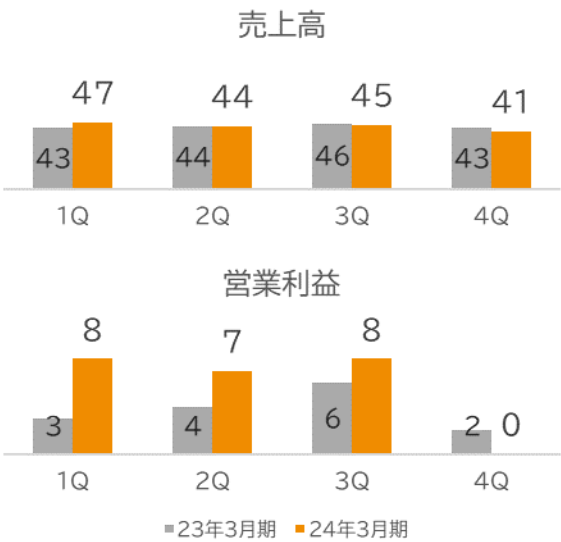


- 食材流通 グループ内の連携を強化し、市場の変化に合わせた業態ニーズを把握して販路拡大に努めたほか、価格改定効果により増収。また、増収効果に合わせ、業務効率および生産性の向上に努め、増益。
- 畜産 全般的な畜肉相場の上昇に伴う売価の上昇、および輸入食肉の販売が堅調に推移し、増収増益。

保管需要を着実に取り込み、46%増益

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	24年3月期 (A)	23年3月期 (B)	前年対比(A-B)		24年3月期 (C)	営業利益率	23年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
物流	176	176	△ 0	△0.1%	23	13.1%	16	9.0%	7	+45.6%



- 物流 保管需要を着実に取り込んだほか、電気料金を含めた動力費などのコスト上昇を適切に価格に反映したことにより、増益。

2025年3月期計画と今後の施策

- 現中期経営計画「海といのちの未来をつくる MNV 2024」の最終年度となる、2025年3月期の計画値を上方修正
- 親会社株主に帰属する当期純利益には、前期に計上した特別利益(広島工場の火災による受取保険金)の影響あり

(単位:億円)

	24年3月期 (A)	25年3月期 <当初計画> (B)	25年3月期 (C)	増減額 C-A	増減率
売上高	10,307	9,600	10,500	193	+1.9%
営業利益 (営業利益率)	265 (2.6%)	270 (2.8%)	300 (2.9%)	35	+13.1%
経常利益	311	-	320	9	+2.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	209	-	190	-19	△8.9%
EBITDA	460	465~	500	40	+8.8%
ROIC(%)	4.2	4.3~	4.3	0.1	+2.4%
(ご参考) 1株当たり当期純利益	413.61円		377.26円		

- 強みである水産・畜産・農産の調達力を生かし、多様化するチャネルに対応する
- 世界中の顧客やマーケットを起点とした水産・畜産・農産および付加価値の高い加工品の提供を通じ、企業価値の最大化を図る
- 上記のビジネスモデルをさらに強化するために、下記の組織改編を実施

セグメント	ユニット	セグメント	ユニット
水産資源	漁業	水産資源	漁業
	養殖		養殖
	水産商事		北米
	海外		加工食品
加工食品	加工食品	加工食品	ファインケミカル
	ファインケミカル		水産商事
食材流通	食材流通	食材流通	食材流通
	畜産		農畜産
物流※	物流		

2024年3月期

2025年3月期

<水産資源セグメント>

- ・「水産商事ユニット」を「食材流通セグメント」に移管
- ・「海外ユニット」を廃止し、「北米ユニット」を新設
- ・「海外ユニット」にあったアジアの事業(ペットフード、食品加工など)を、「加工食品セグメント」に移管

<加工食品セグメント>

- ・「水産資源セグメント」の「海外ユニット」にあったアジアの事業(ペットフード、食品加工など)を、「加工食品ユニット」に移管

<食材流通セグメント>

- ・「畜産ユニット」を「農畜産ユニット」に改称し、「加工食品セグメント」の「加工食品ユニット」にあった農産関連事業を移管

※2025年3月期より、物流セグメントは機能提供事業と位置付け、その他に含める

- エリアで管理していた海外ユニットを廃止し、各エリアの事業を事業特性に応じ、3セグメントに再編
- RHQ(Regional Head Quarter)の設置なども含めて、グローバル戦略の地域への適応を図っていく(下図イメージ)
- 各セグメントを国内と海外に分け、6つのマトリックス(3セグメント×国内・海外)で管理(下表)



水産資源 セグメント	食材流通 セグメント	加工食品 セグメント
国内	国内	国内
海外	海外	海外

2025年3月期 セグメント別 通期計画(参考)

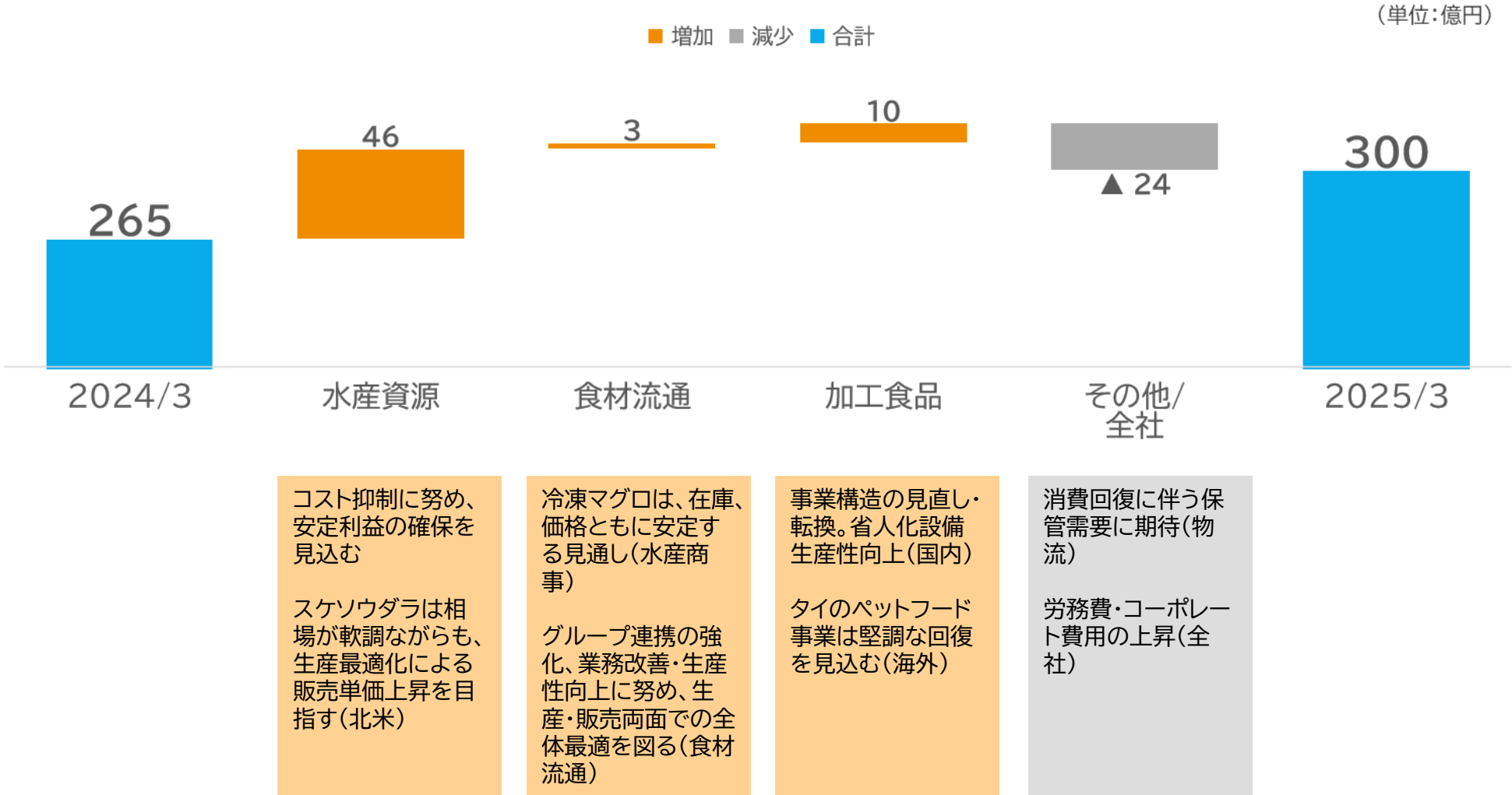


(単位:億円)

	売 上 高		営 業 利 益	
	2024年3月期	2025年3月期 (計画)	2024年3月期	2025年3月期 (計画)
水産資源セグメント 計	2,261	2,428	29	75
(国内 内訳)	649	699	1	4
(海外 内訳)	1,612	1,729	29	72
食材流通セグメント 計	6,249	6,166	97	100
(国内 内訳)	6,214	6,123	99	98
(海外 内訳)	35	44	△ 1	1
加工食品セグメント 計	1,604	1,712	108	118
(国内 内訳)	1,133	1,180	66	63
(海外 内訳)	471	531	42	55
その他	193	194	31	7
合計	10,307	10,500	265	300
(国内 内訳)	8,172	8,181	187	186
(海外 内訳)	2,134	2,319	79	114

※国内…マルハニチロ(株)+国内連結子会社の合計
海外…海外連結子会社の合計
※上記数字は概算につき、ご参考までにご参照ください

営業利益の増減要因(前年対比・セグメント別)

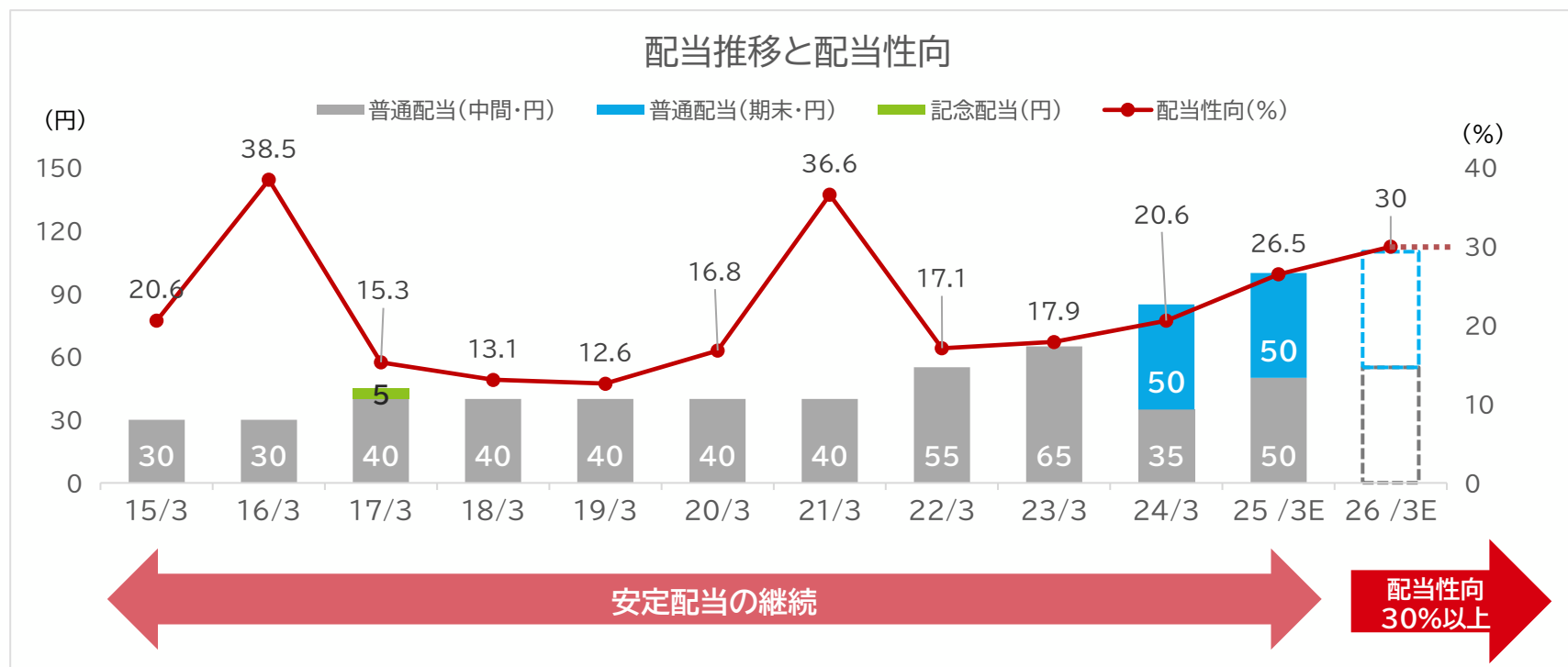


ROIC向上に向けた中長期的な取組み

セグメント	収益向上の施策		投下資本
	日本国内	海外	
水産資源	・操業効率向上によるコスト削減(漁業) ・魚粉使用量低減や飼育技術の向上によるコスト削減(養殖)	・高利益商材を中心に拡販 ・高付加価値品の開発・拡大 ・養殖魚の販売強化	・M&Aを含めた水産資源アクセスの強化やバリューチェーンの強化 ・工場における生産性の向上、省人化の促進などによるコスト削減(北米)
食材流通	・利益率の改善(価格改定、注力カテゴリー・チャネルへの販売強化) ・商品の改廃による効率化 ・水産物相場に左右されない高付加価値商品の開発・拡大	・水産物および業務用商材の販売強化 ・介護食品事業の販売強化	・生産と販売の再構築による全体最適 ・商品の改廃による資本効率向上 ・在庫回転率を高め、運転資本を縮減
加工食品	・利益率の改善(価格改定、注力カテゴリーへの販売強化) ・商品アイテムの削減 ・高付加価値商品の開発・拡大	・冷凍食品の販売強化 ・ペットフードの新規販路開拓	・工場再編による最適化 ・工場の省人化によるコスト削減 ・商品アイテムの削減

- 2024年3月期の年間配当は、1株当たり85円(中間:35円、期末50円／当初予想:1株当たり70円)※
- 2025年3月期の年間配当は、1株当たり100円(中間:50円、期末50円／前期比+15円)を検討
- 2026年3月期(2025年4月～)よりスタートする次期中期経営計画において、配当性向30%以上を目指す
- 財務規律の維持を前提に、株主価値の向上に向けた施策を随時検討

※2024年6月25日開催の第80期定時株主総会に付議



厳しい事業環境は継続するも、コスト低減策や生産性の向上により収益を向上させる

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	25年3月期 (A)	24年3月期 (B)	前年対比(A-B)		25年3月期 (C)	営業利益率	24年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
漁業	462	385	77	+20.0%	75	3.1%	29	1.3%	46	+158.6%
養殖	166	160	6	+3.8%						
北米	1,800	1,716	84	+4.9%						
セグメント計	2,428	2,261	167	+7.4%						

- 漁業 燃油などコスト面での厳しい事業環境は継続する見込み。事業環境の変化に対応し、安定した操業に努めるほか、自社加工度を高めるなど販売ルートを多様化し、収益を向上させる。
- 養殖 飼料代などのコスト上昇は継続する一方、ブリ相場の軟調を予想。原料価格の低減施策を進めながら、安定供給を軸とした販売価格の安定化、アジアを中心とした輸出拡大に注力し、原料価格・販売価格ともに相場連動性の低減に努め、収益の向上を目指す。
- 北米 <北米> スケソウダラは軟調な相場が継続するも、フィレの市場は底を打ち、反転の兆し。生産アイテムの最適化、生産・販売一体となった事業運営などにより、収益力を改善する。
<欧州> 寿司ネタやアジアンフードの拡販をさらに強化し、収益の向上に努める。

生産・調達コストの上昇を懸念。顧客起点のもと、環境の変化に速やかに対応し、収益を向上させる

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益					
	25年3月期 (A)	24年3月期 (B)	前年対比(A-B)		25年3月期 (C)	営業利益率	24年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
水産商事	2,858	2,981	△ 123	△4.1%	100	1.6%	97	1.6%	3	+3.1%
食材流通	2,459	2,343	116	+5.0%						
農畜産	849	924	△ 75	△8.1%						
セグメント計	6,166	6,249	△ 83	△1.3%						

- 水産商事 前期に苦戦した冷凍マグロは、在庫、価格ともに安定する見通し。効率的な調達と販売で適正在庫に徹し、収益拡大に努めるほか、グループ内協業を一層加速させ、強固な事業基盤を構築する。
- 食材流通 円安や地政学的リスクによるコスト上昇を懸念し、前期より厳しい事業環境を予想。グループ内連携の強化、業務効率の改善・生産性向上に努め、収益を確保。また生産・販売両面での効率化を推進し、全体最適を図る。
- 農畜産 調達コストは上昇が継続するも、国内市場は低価格志向が継続。国内外の調達網を活用して、変動する環境への適時対応に努め、収益の向上を目指す。

タイのペットフード事業は主要販売先での在庫調整も終わり、堅調な回復を見込む

(単位:億円)

ユニット	売 上 高				営 業 利 益					
	25年3月期 (A)	24年3月期 (B)	前年対比(A-B)		25年3月期 (C)	営業利益率	24年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
			増減	増減率					増減	増減率
加工食品	1,630	1,525	105	+6.9%	118	6.9%	108	6.7%	10	+9.3%
ファインケミカル	81	79	2	+2.5%						
セグメント計	1,712	1,604	108	+6.7%						

- 加工食品 <国内> 原材料や物流費など生産コストの上昇は継続する見込み。事業構造の見直しと転換を図りつつ、省人化設備の導入や生産性の向上を推進し、収益性を高める。
 <海外> タイのペットフード事業は堅調に推移する見込み。
- ファインケミカル インバウンド需要の未回復、原材料価格の上昇など厳しい事業環境が継続する見込み。医薬原薬事業の拡大や機能性表示取得による既存製品の販売拡大、新商品の販売などにより、事業規模拡大に努める。

Appendix

2024年3月期 連結損益計算書



(単位:億円)

	24年3月期	23年3月期	増減	主な内容
売上高	10,307	10,205	102	
売上原価	8,969	8,852	117	
売上総利益	1,338	1,353	△ 14	
販売費・一般管理費	1,073	1,057	16	
営業利益	265	296	△ 30	
営業外収益	87	73	14	為替差益(33)
営業外費用	41	34	7	
経常利益	311	335	△ 24	
特別利益	96	44	52	受取保険金(85)、投資有価証券売却益(7)
特別損失	48	63	△ 16	損害賠償金(13)
税金等調整前当期純利益	359	315	43	
法人税等	112	71	41	
非支配株主に帰属する当期純利益	39	59	△ 20	
親会社株主に帰属する当期純利益	209	186	23	

2024年3月期 セグメント・ユニット別 実績(組織改編前)



(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
		24年3月期	23年3月期	24年3月期	23年3月期	24年3月期	23年3月期
水産資源	漁業	385	422	△ 10	18	△ 4	30
	養殖	160	159	7	16	15	19
	水産商事	2,981	3,099	29	45	32	47
	海外	2,385	2,305	83	134	97	140
	セグメント計	5,911	5,985	110	214	139	237
加工食品	加工食品	971	989	41	17	42	19
	ファインケミカル	79	78	11	14	11	15
	セグメント計	1,050	1,066	52	31	53	33
食材流通	食材流通	2,228	2,113	59	23	62	26
	畜産	924	860	13	8	19	15
	セグメント計	3,153	2,973	73	31	81	41
物流	物流	176	176	23	16	22	14
その他		17	4	12	3	12	3
全社		—	—	△ 5	1	4	7
合計		10,307	10,205	265	296	311	335

2025年3月期 セグメント・ユニット別 計画(組織改編後)

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高				営 業 利 益					
		25年3月期 (A)	24年3月期 (B)	前年対比(A-B)		25年3月期 (C)	営業利益率	24年3月期 (D)	営業利益率	前年対比(C-D)	
				増減	増減率					増減	増減率
水産資源	漁業	462	385	77	+20.0%	20	4.3%	△ 10	—	30	—
	養殖	166	160	6	+3.8%	4	2.4%	7	4.4%	△ 3	△42.9%
	北米	1,800	1,716	84	+4.9%	52	2.9%	32	1.9%	20	+62.5%
	セグメント計	2,428	2,261	167	+7.4%	75	3.1%	29	1.3%	46	+158.6%
食材流通	水産商事	2,858	2,981	△ 123	△4.1%	40	1.4%	24	0.8%	16	+66.7%
	食材流通	2,459	2,343	116	+5.0%	48	2.0%	60	2.6%	△ 12	△20.0%
	農畜産	849	924	△ 75	△8.1%	12	1.4%	13	1.4%	△ 1	△7.7%
	セグメント計	6,166	6,249	△ 83	△1.3%	100	1.6%	97	1.6%	3	+3.1%
加工食品	加工食品	1,630	1,525	105	+6.9%	105	6.4%	97	6.4%	8	+8.2%
	ファインケミカル	81	79	2	+2.5%	13	16.0%	11	13.9%	2	+18.2%
	セグメント計	1,712	1,604	108	+6.7%	118	6.9%	108	6.7%	10	+9.3%
物流		176	173	3	+1.7%	18	10.2%	23	13.3%	△ 5	△21.7%
その他		18	20	△ 2	△10.0%	13	72.2%	12	60.0%	1	+8.3%
全社		—	—	—	—	△ 24	—	△ 4	—	△ 20	—
合計		10,500	10,307	193	+1.9%	300	2.9%	265	+2.6%	35	+13.2%

【参考】直近4年間のセグメント・ユニット別(組織改編後)

(単位:億円)

		売上高				営業利益			
		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (計画)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (計画)
漁業ユニット	UT計	315	422	385	462	3	18	△ 10	20
養殖ユニット	UT計	146	159	160	166	0	16	7	4
北米ユニット	UT計	1,013	1,544	1,716	1,800	36	57	32	52
水産資源セグメント 計	UT計	1,474	2,125	2,261	2,428	39	91	29	75
(国内 内訳)	国内	572	686	649	699	3	19	1	4
(海外 内訳)	海外	902	1,439	1,612	1,729	35	72	29	72
水産商事ユニット	UT計	2,798	3,116	2,981	2,858	46	38	24	40
食材流通ユニット	UT計	1,948	2,179	2,343	2,459	21	21	60	48
農畜産ユニット	UT計	711	860	924	849	7	8	13	12
食材流通セグメント 計	UT計	5,457	6,155	6,249	6,166	74	68	97	100
(国内 内訳)	国内	5,437	6,122	6,214	6,123	74	70	99	98
(海外 内訳)	海外	20	33	35	44	0	△ 3	△ 1	1
加工食品ユニット	UT計	1,497	1,667	1,525	1,630	95	103	97	105
ファインケミカルユニット	UT計	68	78	79	81	15	14	11	13
加工食品セグメント 計	UT計	1,566	1,744	1,604	1,712	110	117	108	118
(国内 内訳)	国内	1,121	1,156	1,133	1,180	56	35	66	63
(海外 内訳)	海外	444	589	471	531	54	82	42	55
物流	UT計	166	176	173	176	11	16	23	18
その他/全社	UT計	4	4	20	18	5	4	8	△ 11
合計	UT計	8,667	10,205	10,307	10,500	238	296	265	300
(国内 内訳)	国内	7,292	8,132	8,172	8,181	150	144	187	186
(海外 内訳)	海外	1,375	2,073	2,134	2,319	88	152	79	114

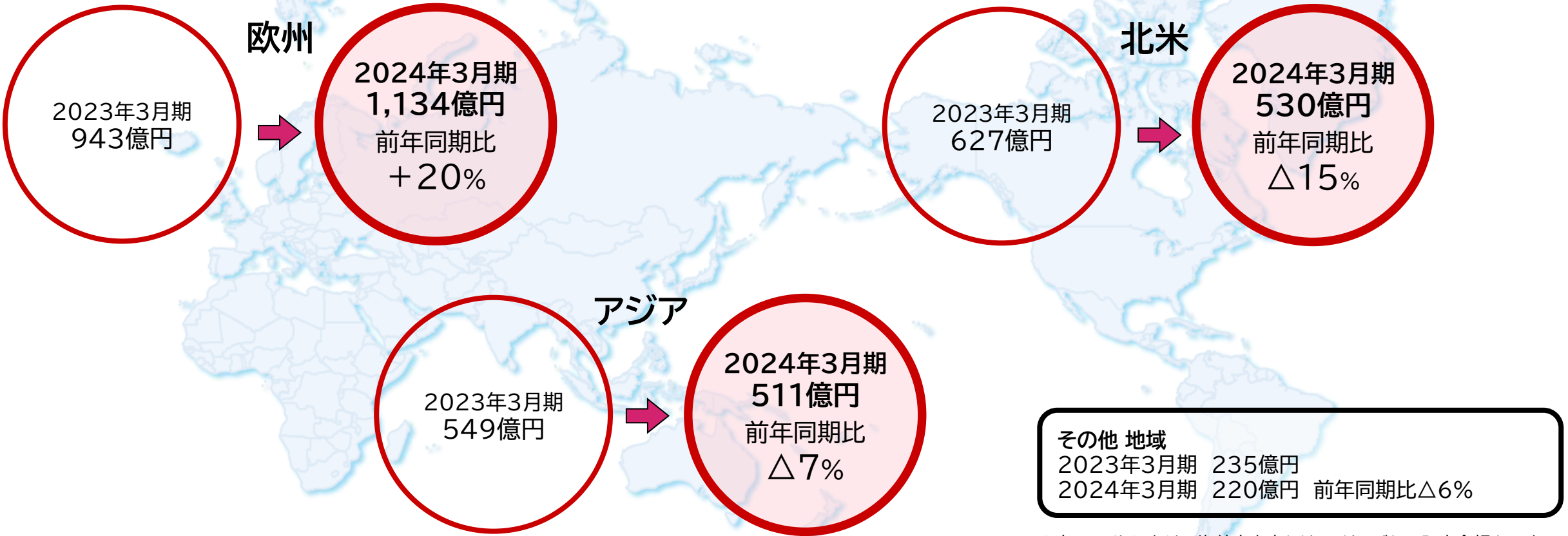
※当スライドの数値は、参考情報として作成(過去数値は概算)

※国内…マルハニチロ(株) + 国内連結子会社の合計、海外…海外連結子会社の合計

2024年3月期の海外売上高

海外売上高	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (中計当初計画)
	2,354億円	2,395億円	2,150億円

海外売上高 比率	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (中計当初計画)
	23.1%	23.2%	22.4%



その他 地域
2023年3月期 235億円
2024年3月期 220億円 前年同期比△6%

※本スライドにおける海外売上高とは、エリアごとの販売金額を示す

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。